日本スポーツマスターズ２０２５大会
暑熱対策に関する対応方針

2025 年 8 月 6 日現在

【大会前】

1. 救護所等において参加者が積極的に身体冷却を行えるような環境を整備(可能な限り複数の冷却方法を準備)する。

2. 万一に備えた救急体制を構築し、救護所における熱中症に特化した対応(救急車の要請⇒涼しい場所への避難⇒身体冷却)を速やかに実施できるように準備する。

3. 参加チーム・参加者に対して、本対応方針の内容を周知する。

4. 運営スタッフに対して熱中症に関する教育(予防、初期症状、早期発見、初期対応、救急処置等)を行うとともに、当日の役割分担等に応じた休憩時間の設定などを適切に行う。
   ※ スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック（第 6 版）

5. 屋外競技の各会場(冷房のない屋内競技の会場を含む)において、競技会開始日の前日に暑さ指数(WBGT)を測定する機器の動作確認を行う。
   ※ 機器に不具合がある場合は、大会実施本部へ連絡すること。

   ＜参加チーム・参加者＞

   - 熱中症に関する情報(症状や予防方法等)を確認し、暑熱順化や個人としての対策(飲料や冷却手段※、服装等)を準備すること。
     ※ 運動前(プレクーリング)、運動中、ハーフタイムなどの休憩時、運動後における競技特性に応じた方法
     ※ 持病や内服薬によっては熱中症に対するリスクが高まるため、適宜、主治医に相談すること。
   - 体調管理(睡眠や食事)の徹底とともに、大会参加 1 週間前からは体調チェック(体温や特記事項を記録)を毎日実施し、大会参加時に記録した内容を持参すること(様式は問わず提出は不要)。

   ＜運営スタッフ＞

   - 体調管理(睡眠や食事、暑熱順化を含む)の徹底とともに、大会当日に向けた個人としての対策(飲料や冷却手段、帽子や服装等)を行うこと。

【大会期間中】

1. 屋外競技(冷房のない屋内競技の会場を含む)においては、各会場において定められたタイミングや場所・方法で、各競技の運営スタッフによる暑さ指数(WBGT)の測定・記録を実施する。
   ※ 屋内競技の冷房を完備している会場においては、大会実施本部としては暑さ指数(WBGT)の測定・記録を実施しない。
   ※ 測定した結果は、JSPO から提供する所定の様式に随時入力すること。暑さ指数(WBGT)31℃以上になった場合は、別途、大会実施本部に連絡し、所定の対応を講じること。31℃以上になった場合は可能な範囲で複数回測定すること。

   ＜タイミング・測定場所＞
   別表（本紙 4 ページ目）を参照

   ＜方法＞
   ・黒球に日射を当てる(黒球が陰にならない)
   ※ 屋内の場合は太陽光が差し込む窓際を避ける
   ・地上（床上）から 1.1m 程度の高さで測定
   ・壁等の近くは避ける
   ・値が安定してから(10 分程度)測定値を読み取る
   ※ 屋外での計測は熱中症の危険性が高まるため、測定者は事前に水分補給をし、帽子を被るなどの対策をすること
   ※ 環境省「屋外日向の暑さ指数計の使い方」(PDF)

2. JSPO 作成の「熱中症予防運動指針」に基づき、暑さ指数(WBGT)31℃以上の場合、原則として競技を中止とする。
   なお、測定のタイミングや試合・競技の進行状況によっては、予め中央競技団体と開催県競技団体が確認した方針（別表参照）や競技規則等に則って対応する。

3. 競技の中止に伴う対応は以下のとおりとする。

   ＜競技日程(開始・終了時刻、試合数、実施会場等)の変更＞

   関係者間(JSPO、開催県、中央競技団体、開催県競技団体)で協議し、適宜、参加チーム・参加者の意向を確認した上で決定する。
   ただし、競技会最終日の終了時刻は、原則として当初の終了予定時刻より遅い時刻には変更しない。

   ＜競技会の全日程を終了できなかった場合の順位・成績の取扱い＞

   中央競技団体は、以下の判断基準により作成した案を大会実施本部に報告・協議した上で順位・成績を決定する。なお、ベスト 8 を確定しない競技会実施方法の場合は、ベスト 8 をベスト 4 に読み替えるなどの運用とする。

   【ベスト 8 以上が出揃っている場合】

   順位は、競技会終了時点における最高成績の全チームを 1 位として取り扱う。

   〔例〕決勝が実施できなかった場合、決勝に進出した 2 チームを 1 位とする。

ただし、準々決勝・準決勝等の各段階のすべての試合が終了していない場合は、各段階まで進出した全チームを同順位とする。

〔例〕準々決勝 4 試合(準決勝 2 試合)がすべて終了していない場合、
準々決勝進出 8 チーム(準決勝進出 4 チーム)は同順位とする。

【ベスト 8 以上が出揃っていない場合】

順位は空位とし、確定しない。

4. 暑さ指数(WBGT)の測定結果に関わらず、選手や運営スタッフの不調による競技の中断や中止等に伴う対応については、予め中央競技団体と開催県競技団体が確認した方針や競技規則等に則って対応する。ただし、事案の発生状況や競技会の進行状況等を踏まえ、可能な限り柔軟な運用を行うものとする。

＜参加チーム・参加者＞

- 大会期間中も体調チェック(体温や特記事項を記録)を毎日実施し、体調の状態や当日の気象予報、環境省「熱中症予防情報サイト」における暑さ指数(WBGT)の実況と予測を踏まえ、熱中症のリスクが高いと判断される場合は、競技参加を取り止めること。

  ※ 環境省「熱中症予防情報サイト(全国の暑さ指数)」

- 当日の気象予報、暑さ指数(WBGT) に関係なく、競技中に熱けいれんや熱疲労の症状(頭痛、めまい、吐き気、嘔吐、脱力感、倦怠感など)を自覚した際には、審判に症状を伝えるとともに、水分補給や休憩などの必要な対応を求めること。

＜運営スタッフ＞

- 担当当日の体調の状態や気象予報、環境省「熱中症予防情報サイト」における暑さ指数(WBGT) の実況と予測を踏まえ、熱中症のリスクが高いと判断される場合は、担当の変更を申し出るなどの対応を講じること。

  ※ 環境省「熱中症予防情報サイト（全国の暑さ指数)」

- 当日の気象予報、暑さ指数(WBGT) に関係なく、業務中に熱けいれんや熱疲労の症状(頭痛、めまい、吐き気、嘔吐、脱力感、倦怠感など)を自覚した際には、運営スタッフに症状を伝えるとともに、水分補給や休憩などの必要な対応を求めること。

別表

<table>
<tr><th>競技</th><th>測定のタイミング/場所</th><th>規程等</th><th>概要</th></tr>
<tr><td rowspan="2">サッカー</td><td>試合開始前、試合中</td><td rowspan="2">JFA暑熱対策ガイドライン</td><td rowspan="2">【試合中実測値がWBGT31℃以上になった場合】
・ 試合を中止・中断又は延期する
※ガイドラインで定めた対応を実施した場合に限り、主催者判断で試合を実施することができる

【主な対応内容】
・ 試合時間の短縮、ハーフタイムの時間の延長、クーリングブレークまたは飲水タイムの採用</td></tr>
<tr><td>(開始前)ピッチ上
(試合中)ピッチに近い場所</td></tr>
<tr><td>テニス</td><td>大会開催中、１時間、または、30分毎
会場内の適切な位置</td><td>熱中症予防JTA公式テニストーナメント開催ガイドライン</td><td><table><tr><td>WBGT32.2℃以上</td><td>プレーの一時的中止</td></tr><tr><td>WBGT30.1℃以上</td><td>ヒートルールの適用</td></tr><tr><td>WBGT28℃以上</td><td>頻繁な休息(水分・塩分の補給、体表冷却手段の提供)</td></tr></table></td></tr>
<tr><td rowspan="2">バレーボール</td><td>試合開始前、試合間</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">【冷房のない会場の対応方針】
WBGT31℃以上になった場合、試合を中止・中断又は延期する。
主な対応内容：
・各セット11点（もしくは7点と14点の2回）で30秒の飲水タイムを確保する。
・体育館の近くの武道場は冷房があるため、選手の休憩場所として使用する。</td></tr>
<tr><td>体育館内</td></tr>
<tr><td rowspan="2">バスケットボール</td><td>試合開始前、試合間</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">【冷房のない会場の対応方針】
WBGT31℃以上になった場合、試合を中止・中断又は延期する。
主な対応内容：
・施設内の救護室、レフェリーウォーミングアップ会場、審判控室は冷房が入るので、選手の休憩場所として使用
・身体を冷やせるよう、救護用に加えて冷却用の氷を用意する</td></tr>
<tr><td>体育館内</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自転車競技</td><td>競技開始の１時間前から１時間毎(終了予定の１時間前まで)</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">WBGT31℃以上の場合、原則として競技を中止とする(大会全体の方針)</td></tr>
<tr><td>バンク近くの測定可能な場所</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ソフトテニス</td><td>常時観測(記録は１時間毎)</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">【WBGT31℃以上】
・ 原則マッチ(試合)を中断し、休憩時間をとる(水分補給や身体冷却のための時間をとる)

【暑さが予想される場合】
・ ルールや慣例に囚われない水分補給、タイム時の日傘等身体冷却備品の使用許可
・ マッチ(試合)をしていない4ペアのコート外での休憩</td></tr>
<tr><td>大会使用コート付近</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>競技</th><th>測定のタイミング/場所</th><th>規程等</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>軟式野球</td><td>開始前、2 回、5 回終了後、試合終了後
活動に支障がなく、運動実施個所になるべく近いところ</td><td>JSBB 熱中症予防対策ガイドライン</td><td>
<table>
<tr><td>WBGT35℃以上</td><td>試合の中止や順延を判断</td></tr>
<tr><td>WBGT33℃以上</td><td>試合の中止や順延、時間変更を判断</td></tr>
<tr><td>WBGT31℃以上</td><td>原則、試合は中止、中断、順延とする
※JSBB 危機管理マニュアル(熱中症項目)の大会運営側の対応ならびに試合中の　クーリングブレイクの確保が十分に取られている場合は主催者の判断において実施することができる
※試合中に WBGT33℃を超えた場合は、試合を中止または中断する</td></tr>
<tr><td>WBGT28℃以上 31℃未満</td><td>JSBB 危機管理マニュアル(熱中症項目)に準じて試合を実施することができる</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>ソフトボール</td><td>試合開始前、給水タイム毎
バックネット近く</td><td>ソフトボールにおける熱中症予防対策ガイドライン</td><td>WBGT31℃以上の場合、原則として競技を中断するが、ガイドラインに定めた対応を実施した場合に限り、主催者判断で試合を実施することができる。
主な対応内容：事前のガイドラインの周知、状況に応じた冷却・給水タイムの採用、冷却用品の準備を運営側・参加者側双方で行う。WBGT35℃以上の場合、各会場責任者と大会委員長で協議のうえ、試合の中断、中止、延期を決定する。</td></tr>
<tr><td>ゴルフ</td><td>常時観測(記録は 1 時間毎)
クラブハウス周辺の芝の上でかつ日があたる場所</td><td></td><td>WBGT33℃以上の場合、プレーの中断を検討する。
WBGT31℃を超えることが予想される場合、または開催コースから要請があった場合、9 ホール後に 30 分の休憩をとらせることを検討する(この休憩時間は規則上のラウンド中となる)。</td></tr>
</table>